

EM ボカシ容器の 上手な使い方

EM ボカシとは、米ヌカやもみがら、糖蜜に EM 菌（有効微生物群）を混和し発酵させた発酵合成型有機肥料のことと、生ごみ等を EM 菌によって発酵させ肥料にします。

作業の手順は？

【用意するもの】

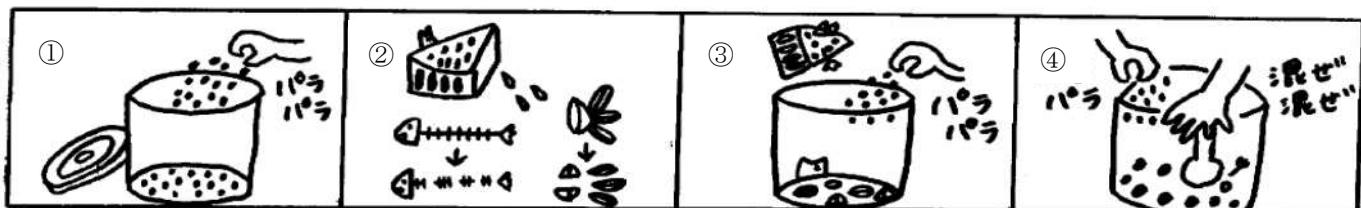
EM ボカシ容器… 2 個あれば便利

生ごみ（紙・ビニールは入れない）

EM ボカシ（湿気と直射日光を避けて保管）

生ごみ 1 kg に対して

ボカシ 20 g の割合

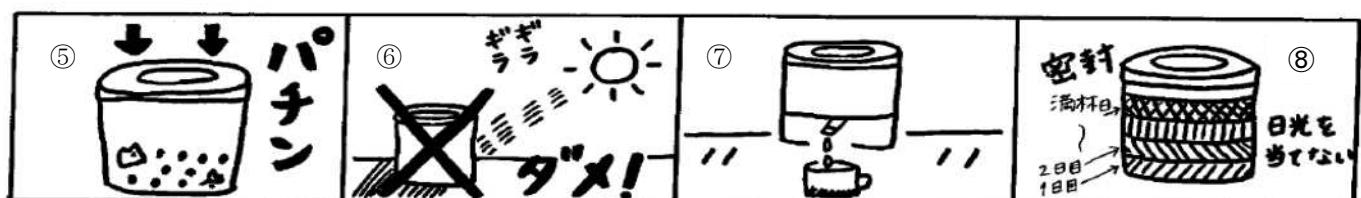


①容器の底にボカシを
ひとつまみまく

②生ごみは十分水切りする
(大きな生ごみは 3 cm 以下
にカットする)

③生ごみとボカシを入れる
※生ごみ 1 kg に対して
ボカシ 20 g
(およそひとつまみ程度)

④生ごみとボカシをよく混ぜた後、
表面にボカシをひとつまみまく
(当日入れたものだけを混ぜる)



⑤しっかりとフタをする
(発酵する際に出るガスに
よりフタがふくれる時は、
こまめにガス抜きする)

⑥直射日光を避け保管し、
②以降の作業を繰り返す
(前日までの分に重ねて層
にする)

⑦容器の底にたまる液体
(液肥) が生ごみにつかる
と腐りやすい。こまめに
抜いて早く使い切る。

⑧一杯になった容器は 1 週間～
10 日間保管して熟成させる。
その間は別容器で作業する。

チェックポイント！

◎生ごみの水切りはしっかりと！

◎生ごみは新鮮なうちに処理！（その日の生ごみはその日のうちに）

◎夏場はボカシを多めにふりかける！

成功例

- 甘酸っぱい匂いがする
- 生ごみの形に変化が少ない
- 生ごみの色に変化が少ない

失敗例

- ×腐敗臭がする
- ×ウジ等がわく
- ×生ごみの色が黒っぽくなる

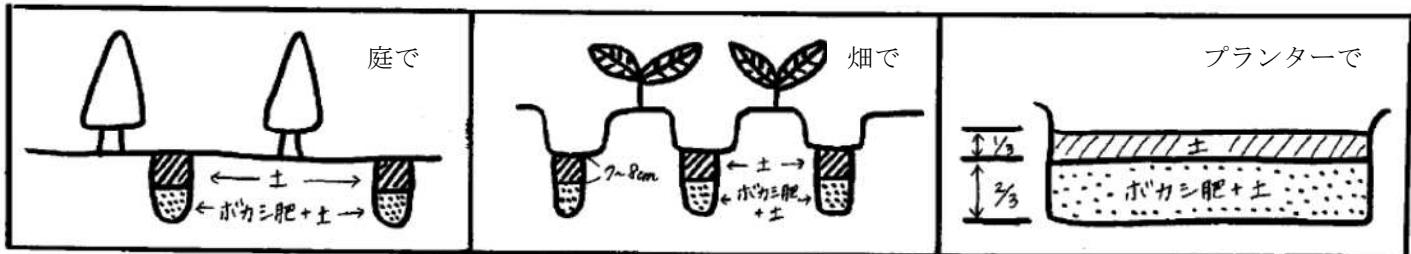
失敗原因

- △液肥を抜いていない
- △ボカシの量が少ない
- △生ごみの水切りが不十分
- △ボカシと生ごみがよく混ざっていない
- △容器が密封できていない
- △腐った生ごみが多い

熟成した後の
利用方法は？

熟成したもの（ボカシ肥）及び液肥はこんなところで利用します！

【ボカシ肥の場合】ボカシ肥を土に入れ、20日以上たってから種や苗を植える



◎庭木の場合は所々に穴を掘って
埋める程度でよい
(酸性が強いので根元に入れない)

◎ウネとウネの間に入れてその上に
7~8cm程度の土を盛る

◎土とボカシ肥をよく混ぜ、土をかぶせて
ビニール等で覆い、2~3週間おく
(水分が多いと腐敗するので1週間～
10日間は水をかけない)

【液肥の場合】追肥にもなるし、清浄・消臭効果がある



◎1,000倍程度に薄め、10日間
に1回、追肥として使用する
(葉や作物には直接かけないこと)

◎500倍程度に薄め、台所の流しや浴室の排水口、トイレ等から
1~2週間に1回、1~2リットル流す

どうして？困った！EM ボカシ相談室

Q1：生ごみを腐敗させないで作るコツは？

- A : • 水切りをよくする（三角コーナーで水がたれない程度に）
- 新鮮なうちに容器に入れる（密封状態を保つ）
- 夏場はボカシ剤を多めにふりかける • 直射日光に当たらない

Q2：成功（発酵）と失敗（腐敗）の見分け方は？

- A : 量はあまり減りませんが、甘酸っぱい匂い、糠漬けやヨーグルトのような匂いなら成功。
生ごみの腐った臭いは失敗です。

Q3：熟成中に出てきた白いカビは？

- A : 悪臭がしなければ、白いカビは有効な菌なので大丈夫です。悪臭がするなら、ボカシ剤を多めにかけて様子を見てください。もし失敗したら土の中に埋めましょう。

Q4：EM ボカシ容器とコンポスト容器の違いは？

- A : EM ボカシ容器…空気や日光を嫌う菌（嫌気性菌）で生ごみを発酵させ堆肥化します。容器内では生ごみの量はほとんど変わりませんが、いったん土の中に埋めると急速に発酵分解が進むのがボカシ剤を活用した生ごみ肥料の特徴です。クローズタイプ。
- コンポスト容器…土の中の日光や空気を好む菌（好気性菌）で生ごみを堆肥化します。オープンタイプ。